

# 平成 29 年度 学校教育自己診断結果

● 実施時期 平成 29 年 11 月

● 回 答 生 徒：100 名（28 名減） 保護者：27 名（15 名増） 教職員：24 名（増減なし）

## 1. 生徒の自己診断結果

○肯定率の高い項目	肯定的意見(回答3・4の合計)(%)	H29	H28
3	学校は生徒の意見をよく聞いてくれる。	83.2%	78.0%
2	この学校には、他の学校にない特色がある。	81.3%	85.6%
22	個人情報についてプライバシーが守られている。	81.3%	77.9%
24	学校は、進路についての情報を知らせてくれる。	81.1%	80.6%
25	定通修学奨励費制度、教科書給付・夜食給食援助制度、奨学金制度などの情報をよく知らせてくれる。	80.2%	81.1%
7	教え方にさまざまな工夫をしている先生がいる。	80.0%	84.1%
20	悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる。	80.0%	77.1%

・「意見をよく聞いてくれる」「悩みや相談に応じてくれる」など、生徒に寄り添った指導に関する項目が昨年度を上回り高い結果となった。

・授業に関しては、「教え方の工夫」が昨年度より約4%減となったが、依然として肯定率8割を維持しており、教員全体が「生徒が分かる授業」を目標に授業改善に取り組んだ結果である。

・個人情報の保護については、教職員への注意喚起や管理徹底により、教職員が適切な個人情報管理に努めた成果が現れている。

○肯定率の低い項目		H29	H28
10	環境、国際理解、福祉ボランティアなどの新しい課題について学習する機会がある。	47.3%	68.0%
28	授業や部活動での活動を通して、地域の人々とかかわる機会がある。	56.8%	53.8%
6	授業で自分の考えをまとめたり、発表することがある。	57.7%	55.2%
5	授業では、実験・観察・実習などの時間がある。	58.3%	57.6%
9	授業やホームルームなどで、学校以外の先生方からの話を聞く機会がある。	61.5%	
1	あなたは学校へ行くのが楽しい。	64.0%	67.2%
21	教室以外に、保健室などで落ち着ける場所がある。	64.9%	68.1%

・授業の学習内容および活動に関する項目の肯定率が低い結果となった。「分かりやすい授業」を土台に、生徒の主体的な学びを取り入れるなど、新たな授業づくりが求められている。

・「落ち着ける場所」や「学校生活の楽しさ」の項目の肯定率が、それぞれ64.0%・64.9%に留まっている。これらの要因は生徒により異なるため多岐にわたるが、かめカフェによる居場所づくり、学校行事の見直しや授業改善などを通して生徒の学校への満足度を高めたい。

## 2. 生徒、保護者、教職員の診断結果の比較

### ○得点の高い項目

#### 「学校に対する項目」

生徒：学校は、生徒の意見をよく聞いてくれる。	《83.2%》
保護者：学校は、保護者の相談に適切に応じてくれる。	《84.0%》
教職員：ケース会議などを通して生徒1人ひとりの課題について教員が向き合っている。	《95.8%》

#### 「教育活動に対する項目」

生徒：学校は、進路についての情報を知らせてくれる。	《81.1%》
保護者：学校は、進路や職業などについて適切な指導を行っている。	《84.0%》
教職員：生徒が望ましい勤労観、職業観を持つことができるよう、系統的な進路指導を行っている。	《79.2%》

「学校に対する項目」では、生徒に寄り添った指導に関する項目が、「教育活動に対する項目」では進路指導に関する項目が生徒・保護者・教職員に共通して高い値を示した。保護者の肯定率は、前者が約8ポイント減、後者が16ポイント減となっているものの、保護者からの回収数が増加したことで多様な意見が反映された結果であると認識して、引き続きこれらの取り組みを進めていく。

### ○得点の低い項目

#### 「学校に対する項目」

生徒：授業や部活動での活動を通して、地域の人々と関わる機会がある。	《56.8%》
保護者：この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。	《40.7%》
教職員：地域の人々と接する機会を持っている。	《41.7%》

#### 「教育活動に対する項目」

生徒：あなたは学校へ行くのが楽しい。	《64.0%》
保護者：子どもは学校へ行くのを楽しみにしている。	《63.0%》
教職員：学校行事が生徒にとって魅力あるものとするために、工夫・改善を行っている。	《83.3%》

「学校に対する項目」では、「地域の人々との関わり」「行事への参加」の肯定率が低い結果となった。本校は、夜間定時制で単位制という特徴があるものの、生徒が社会参画できるよう地域と連携した取り組みを検討していきたい。

「教育活動に対する項目」では、教職員の「学校行事の工夫・改善」の肯定率が83.3%となったのに対して、生徒・保護者の「学校を楽しみにしている」の肯定率はそれぞれ64.0%・63.0%となり、約20%の差があった。次年度は、家庭との連絡をより密にし、生徒や保護者のニーズを適切に捉え、学校行事の実施方法等の改善を検討していきたい。